

親子で読んでほしい絵本大賞

『がっこうに まにあわない』 発表



今年も、「親子で読んでほしい絵本大賞」作品が、JPIC 読書アドバイザー 108名の投票で決まりました。今回から大賞を含む10作品に加え、新しく赤ちゃん絵本から1冊を選ぶ、「ベビー賞」が新設されました。絵本の目利きたちのコメントも秀逸です。

また、小誌読者のみなさんにも「読者賞」に投票いただきありがとうございました。

今回は4位以下が3作品同率となる激戦でした。上位入賞の6作品を発表いたします。

★コメントを寄せていただいた方の敬称略、順不同

★タイムリミットの13分前に家を出て、ワニのいる水たまりや巨大なイヌの横を通り抜け、走るのになかなか進まず、ようやく学校にたどりついたそのとき! あせる心理状況がよくわかり、最後には学びもあります。親子で楽しめます。(22期 間宮成美)

★読みきかせをしていて、大人も楽しめました。子どもたちをおはなしの世界に導き、本を好きにするのはこういう本ではと思いました。(24期 立花みどり)

★表紙を開いた途端に、大人も子ども時代へ。ページをめくるたびに、親子でハラハラドキドキする感じを、1秒1秒、体感共有できます。しかも最後の、遅刻したくないワケに思わず、おお! と感動と納得の答えが。(27期 本多よしえ)

★絵の迫力に圧倒されました。(27期 松永幸代)

★絵が、ダリを思わせてユニーク。学校に遅刻しそうという、誰もが経験のある事柄を描いていて親しみが持てます。ラストがいい! (13期 早川裕)

★疾走感が爽快。そしてラストの空を見上げるシーンで、一気に世界が広がる感覚を味わうだろう子どもたちを、かたわらで見守っていたいなと思いました。(16期 小出綾美)

★子どもの気持ち、迫力のある絵とびったりフィット。共感と一緒にどんどん引き込まれていくジェットコースターのような気持ちよさがありました。(10期 原 亜矢子)

★ありえない展開と個性的な絵に圧倒されながらも、男の子のあせりと緊張に共感。日常の中で流れていく時間の重さも感じます。男の子が今日、絶対に遅刻できない理由も素敵なので、子どもと大人、一緒に楽しんでほしいです。(21期 湯阪美智子)

★苦手ゆえに巨大化したように描かれるイヌ、開かずの踏切は「ゴンゴンゴンゴンゴン」と鳴りやまず。不思議な世界観に親子でどっぷり浸かってほしい! (15期 中村典子)

★スピード感あふれる魅力的な絵と予想外の結末に感動しました。学校図書館におすすめの絵本です。(26期 谷川志穂)

★あわてて学校に向かっている男の子のまわりは、世界も時間も異空間になってしまいます。そのあせる気持ちに、親子で一緒にハラハラドキドキ、臨場感あふれる絵本です。(21期 灰岡美樹)

★小学校が近いのに毎朝遅刻していた私。まるでこの絵本の主人公と同じ。こんなことがあつたらうれしかったな。(13期 豊増良子)

★スピード感のある絵と言葉が臨場感抜群! (4期 諸岡弘)

★3月14日に、ザ・キャビンカンパニーさんをお招きして、表彰式を行います。式の様子は、次号誌面にてお伝えいたします。お楽しみに!



『がっこうに まにあわない』

作/ザ・キャビンカンパニー
1,650円 (あかね書房)



親子で読んでほしい絵本大賞とは

親子でもっと絵本を楽しんでほしい! いい絵本を親子に届けたい! との思いを込めて、JPIC 読書アドバイザークラブ(JRAC)により創設されました。選出方法: JRAC 会員40名からなる選考委員が、「この本 読んで!」2022年春号~冬号の4号で紹介された新刊絵本400冊の中から大賞候補作12作品を選出。それを、JRAC 会員有志が読み、12作品の中から1~3位を選んで投票しました。

※ JPIC 読書アドバイザークラブについての説明は、P57下部に記載しています。



運動フェア実施!

この特集で紹介した絵本のコーナーが以下の書店に設けられます。くわしくは下記まで。
こどもの本のみせ ともだち (神奈川県横浜市港北区)
ふたば書房 御池ゼスト店 (京都府京都市中京区)
絵本カフェ Mébaé (京都府京都市北区)
ふたば書房 茨木店 (大阪府茨木市)
FUTABA+ ブリコ垂水店 (兵庫県神戸市)